

天平二年正月十三日

萃于帥老之宅 申宴會也

于時初春 令月 氣淑風和

梅披鏡前之粉

蘭薰珮後之香

天平二年正月十三日

帥老の宅に集まりて宴會を申べたり

時に、初春の令月にして

氣淑く風和ぎ

梅は鏡前の粉を披き

蘭は珮後の香を薰らす

山陰地方唯一の国の特別史跡に指定されている
齋尾廃寺跡。7世紀後半に建てられた寺院の土台
となった基礎を見ることができる(琴浦町槻下)

万葉のふるさと鳥取県

「令和」のゆかり、各地に点在

今年5月、「令和」の時代がスタートしました。新元号の出典は、現存する日本最古の歌集といわれている『万葉集』です。この『万葉集』に載っている梅花の歌32首の序文から「令」と「和」の2文字を引用して名付けられた「令和」。

私たちのふるさと鳥取県には『万葉集』ゆかりの地が多くあります。当時を感じさせる、そうした場所を訪ねてみましょう。

「令和」出典との深い縁

『万葉集』は、主に7世紀後半から8世紀にかけて、天皇から庶民までさまざまな立場の人に詠まれた和歌を集めたものです。編さんに関わったのは、758(天平宝字2)年に因幡国(今の県東部)の国守として赴任した万葉歌人・大伴家持が翌759年に詠んだ歌は『万葉集』の最後を飾っています。

その頃からさかのぼること約30年の730(天平2)年1月に、大宰府(今の福岡県太宰府市)の長官で家持の父・大伴旅人が宴を開催。庭の梅を囲んで詠まれた歌32首のまとまりを解説した序文(ページ上参照)からの引用により、新元号は「令和」になりました。

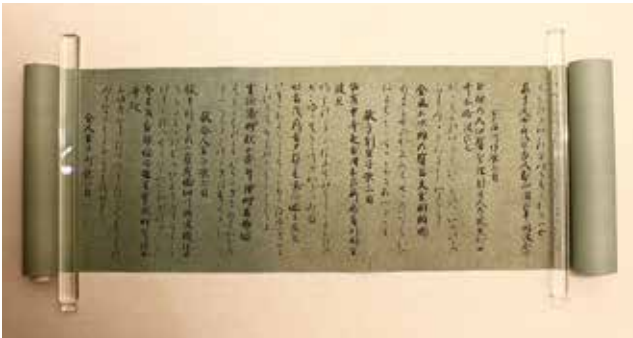
さらに、この宴には伯耆国(今の県中西部)の国守を務めた山上憶良も出席。奈良時代の鳥取県に赴任した2人の歌人は、「令和」の出典『万葉集』に深く関わっていたのです。

万葉集とは

日本に現存する最古の歌集。

柿本人麻呂や山上憶良など代表的な歌人のほか、天皇、貴族、地方役人、庶民に至るまで幅広い歌人が詠んだ短歌、長歌、旋頭歌など4516首の和歌が全20巻に収められています。このうち、大伴家持が詠んだ歌は473首で全体の1割以上を占め、山上憶良の歌は約80首あります。

こうした和歌は内容によって「雑歌」「相聞歌」「挽歌」に分類されます。



藍紙本万葉集(複製)。藍色の紙を使っていることからこの名が付いた(写真提供=鳥取市因幡万葉歴史館)

和歌の形式

短歌 5・7・5・7・7の5句31音で構成。『万葉集』の9割を占める。

長歌 5音と7音の句を、5・7・5・7と何回か繰り返し、最後は7・7と結ぶ。

旋頭歌 5・7・7・5・7・7の6句で構成。上3句と下3句を別人が詠む合作を基本として成り立つ。

和歌の分類

雑歌 『万葉集』では、相聞歌、挽歌に含まれない歌。行幸、遷都、宮廷の宴会など、公的な晴れがましい場での歌が多い。

相聞歌 恋愛の歌。恋人同士で詠み交わされた歌や失恋の歌。

挽歌 死者を悼む歌。人の死に関する歌。

庶民に寄り添う2人の歌人

梅花の歌32首の4番目に歌を詠んだ山上憶良は、貧しい生活の苦しさや問答の形式で歌った「貧窮問答歌」でも有名な奈良時代の歌人です。701(大宝元)年に遣唐使に任命された憶良は翌年、唐(今の中国)に渡り、儒教や漢文、国政などを学び、その経験を役人の仕事に生かしたと考えられています。新元号に引用された作者不明の漢文の序文は、留学経験があり漢書に造詣が深い憶良の作ではないかとも言われています。



憶良の魅力が現代人にもその心が伝わり、親しみがある」と語る福井さん

「山上憶良の会」会長の福井伸一郎さん(倉吉市)は、憶良の研究に関わって10年。憶良の魅力を「役人のトップで、今でいう県知事。それでいて、人々の生活や思いを歌で詠む庶民派」と話します。

一方、梅花の宴が催された頃は、12、3歳だった大伴家持。後に東国から遠く離れた九州に赴く守備兵「防人」に心を寄せ、家族を思う防人の歌を集めて、東国からの派遣を政府に改めさせたともいわれています。名門貴族の出身でありながら庶民に寄り添う姿は、憶良同様、親しみが持てます。

憶良の歌「土やも空しくあるべき万代に語り継ぐべき名は立てずして(※1)」に対して、「大夫は名をし立つべし後の世に聞き継ぐ人も語り継ぐがね(※2)」と詠んだ家持は、憶良の影響を強く受けているといわれています。

(※1)男子として、空しく人生を終わってよいものだろうか。万代の後まで語り継いでいくような名を立てず

(※2)大夫は立派な名を立てるべきである。のちの世に聞き継ぐ人もまた語り継ぐように

鳥取市因幡万葉歴史館 (鳥取市国府町)

因幡地方の古代の歴史や文化をテーマにした歴史館。常設展示室には家持ゆかりの資料や、万葉の頃の庶民の暮らしが展示されています。

10月20日には「万葉フェスティバルin鳥取 第22回万葉集朗唱の会」が開催。『万葉集』の朗唱、書道パフォーマンス、茶席や万葉おこわをはじめとする飲食コーナーなどがあります。詳細はお問い合わせください。



大伴家持像(左)、当時の衣装を企画展示室に再現(右)
(写真提供=鳥取市因幡万葉歴史館)

☎ 0857-26-1780 F 0857-26-1781
<http://www.tbz.or.jp/inaba-manyou/>



県内には『万葉集』ゆかりの史跡や歌碑が多く残っており、また歴史や文化を伝える資料を展示している博物館もあります。

当時の生活や自然を教えてください。ガイドに案内してもらおうのもよし、展示物や資料から歴史を学んで現地を巡るのもよし。人それぞれに、万葉の時代に思いをはせることができます。

令和元年は、『万葉集』最後の歌が詠まれた年から1260年目

当たります。今年県が新たに作成したウェブページ「万葉の郷ととりけん」では、今号に掲載した以外の見どころやポイントなども紹介。場所がひと目で分かるマップも掲載しています。私たちのふるさと・鳥取県で、古代万葉のロマンを訪ねる旅をしてみませんか。

☎ 県庁文化政策課

☎ 0857-26-7843
F 0857-26-8108

伯耆国府跡 (倉吉市国府)



南西方向から見た伯耆国府跡周辺
(写真および復元図提供=倉吉市教育委員会事務局文化財課)

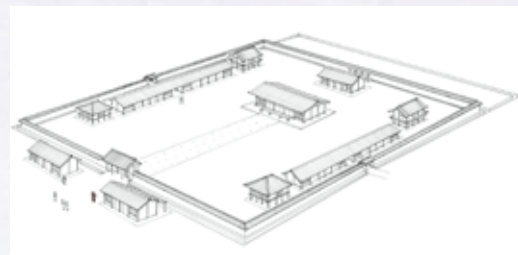
ウェブページ「万葉の郷ととりけん」

県内の万葉ゆかりの場所や、おすすめの観光コース、イベント情報などを掲載。



<https://www.pref.tottori.lg.jp/manyo/>

倉吉市の西方に広がる丘陵地には、山上憶良が伯耆国の国守として仕事を行ったとされる不入岡遺跡があります。また、その南西には、憶良の時代より後に役所が置かれたと考えられている伯耆国府跡や法華寺畑遺跡があり、これらは国史跡・伯耆国府跡として指定されています。



伯耆国府跡内郭復元図(9世紀中頃)

万葉のゆかりは県内各地に

家持が因幡国の国守だった759年、新年の宴で詠んだ歌「新しき年の始めの初春の今日
降る雪のいや重け吉事」(降り続く雪のように良い事がたくさん重なってほしい)が刻ま
れている。この歌が『万葉集』の最後を飾る(写真提供=鳥取市因幡万葉歴史館)

当時の風景、楽しく伝える

いなば国府ガイドクラブ会長 おき ひろ とし 沖 廣俊さん

鳥取市国府町の史跡や文化のガイドを13年続けて
います。会員は、歴史や仏像、史跡に詳しい国府町在
住の12人。令和の大典『万葉集』やその編さん者・大
伴家持が注目され、新たに「スペシャル『令和』コ
ース」も作りました。

ガイドの依頼は昨年の3倍以上。県内をはじめ、関
東や関西、九州などからも。お客さまの希望に合わ
せ、万葉の時代の史跡や、大伴家持がいた頃の雰
囲気を分かりやすく伝えるよう心掛けています。『万葉
集』最後の歌が、ここ因幡の国府で詠まれたと話す
と、多くの人が驚かれますよ。勉強の成果をお客さん
に直接伝えるのは、私たちにとって喜びです。

秋の行楽シーズンには、ガイドの依頼がたくさん
入っています。万葉の時代から変わらぬ風景と史跡
や歌碑に、大人にも子どもにも、万葉のロマンとふる
さを感じてもらいたいですね。

問 いなば国府ガイドクラブ(鳥取市因幡万葉歴史館内)
☎0857-26-1780 📠0857-26-1781



大伴家持歌碑
(鳥取市国府町)



あわしま 粟嶋神社 (米子市彦名町)

難病苦難からの守り神であ
る少彦名命すくなひこなのみことを祭る古社。照葉
樹林の森で作られる社叢しゃそうは県
指定天然記念物。粟嶋は米子
市指定名勝です。

『万葉集』第3巻には、少彦
名命を詠んだ生石村主真人おひしのすぐりまひとの
歌があります。「大汝の神おほ
くにぬしのみこと(大
国主神)と少彦名の神がおい
でになったという志都しつの岩屋
は、いったい幾代いくよを経たこと
であろうか」と、由緒ある土地を
たたえています。



粟嶋神社(上)、生石村主真人の万葉歌碑(下)
(写真提供=米子市文化振興課)

山上憶良歌碑 (倉吉市国府)

碑に刻まれている歌の意味は、「瓜を食
べると子どものことが思われる。栗を食
べるとましてしておぼされる。いったいどこから来
たのだろうか。子どもの面影が目の前に
ちらついて安らかに眠らせてくれない」

憶良は、庶民の生活を詠んだ歌ととも
に、子どもを思う親心を詠んだ歌も多く残
しています。

